

群馬県 グループホームあかぎ(ユニット1丁目) 地域密着型サービス評価の自己評価票

(☐ 部分は外部評価との共通評価項目です)

取り組んでいきたい項目

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営			
1. 理念と共有			
1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	重度要介護者の多いユニットです。その人らしく尊厳ある生活を営んでいくことを重点におき、ホームでの生活が利用者本位のものとして支えていけるように努めています。また、地域で暮らすことを支えるため、地域の人との交流が図れるよう、外出行事や食事会は地域に出かけて行くようにしていますし、慰問など地域の方に来ていただいています。	○ 今後同様に取り組んでいきます。
2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	職員室のよく目につく場所に運営理念を掲示し、共有を図るようにしています。また、申し送りや会議などで、折に触れて理念の理解を深められるよう話しています。	○ 今後同様に取り組んでいきます。
3	○家族や地域への理念の浸透 事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にしたい理念を、家族や地域の人々に理解してもらえよう取り組んでいる	入居契約の際には、必ず口頭で説明し、ご理解を頂けるように努めています。また、運営推進会議や行事など、地域の方々や家族が集う場所で当ホームのありかたなどを折を見て話すようにしています。	○ 今後同様に取り組んでいきます。
2. 地域との支えあい			
4	○隣近所とのつきあい 管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄ってもらえるような日常的なつきあいができるように努めている	近隣の商店には入居者様と一緒に立ち寄り、世間話などをしています。また、外食なども近隣の飲食店に出かけています。	○ 今後同様に取り組んでいきます。
5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	地域で行われる行事への参加や、自治会での新聞回収などに協力し、地元の人との交流が図れるように努めています。また、夏祭りではポスターを地域の掲示板に貼っていただいて、地域の方への参加を呼びかけています。	○ 今後同様に取り組んでいきます。

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
6	○事業所の力を活かした地域貢献 利用者への支援を基盤に、事業所や職員の状況や力に応じて、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる	地域や地元の方からの介護サービスに関する相談などを積極的に受けるようにしています。当ホームへの入居希望に関わることはもちろん、認知症に関する知識やその介護方法などの相談も随時受けています。	○	今後同様に取り組んでいきます。
3. 理念を実践するための制度の理解と活用				
7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	外部評価については、申し送りでその意義について説明した上で評価日時を職員に知らせています。評価結果は、全体会議で全職員に周知し、よい面悪い面を皆で把握し、以降の意識改革につなげて行くようにしています。	○	今後同様に取り組んでいきます。
8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議のメンバーからの意見は、地域や家族から直結した意見として貴重なものと捉え、意見を業務に反映できるように努めています。また、行事などの時に参加いただき、ホームへの理解を深めていただくとともに、ご意見をいただいたことについては、次回に繋げていくように努めています。	○	今後同様に取り組んでいきます。
9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	ホーム内行事に招待したり、役所を訪問した際に情報交換を行っています。	○	今後同様に取り組んでいきます。
10	○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、地域福祉権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している	研修会に参加する機会を設けています。当ホームで後見人制度を利用している方もおり、そのかわりの中で学ぶことを大切にしています。	○	今後同様に取り組んでいきます。
11	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	研修会の機会を設けています。事業所内で虐待が見過ごされることのないよう、受傷した際には虐待によるものでないことを確認しています。また、関わりのある職員にはインシデントレポートの義務付けを行っており、今後受傷しないための対応策を図っています。	○	今後同様に取り組んでいきます。

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
4. 理念を実践するための体制				
12	○契約に関する説明と納得 契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	文書をもって口頭で説明をすることを基本とし、節々に疑問点について確認しながら契約を行います。また、不安や疑問点については、いつでも申し出て欲しい旨お伝えするようにしています。	○	今後同様に取り組んでいきます。
13	○運営に関する利用者意見の反映 利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	利用者が思いを伝えやすいのはご家族であるため、面会や電話連絡の際には、意見を頂くようになっています。また、年1回、無記名でサービスアンケートを行い、率直な意見を頂く機会を設けています。頂いた意見は各会議にて検討し、改善を図るため職員全体で話し合っています。	○	今後同様に取り組んでいきます。
14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	面会の際には、随時状態報告を行っています。面会の少ないご家族に関しては定期的に電話での報告やホーム便りで定期的にホームでの生活の様子を伝えています。	○	今後同様に取り組んでいきます。
15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	面会の際には必ず声をかけ、入居者の状態を報告するとともに、ご意見をうかがうようになっています。ご意見を頂いた際には、申し送り等で職員に周知するなど、今後のホームの対応に反映できるようにしています。	○	今後同様に取り組んでいきます。
16	○運営に関する職員意見の反映 運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	各担当会議やユニット会議において、職員各自の意見を出せる機会を設けています。出された意見については、有効に運営に反映させています。	○	今後同様に取り組んでいきます。
17	○柔軟な対応に向けた勤務調整 利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保するための話し合いや勤務の調整に努めている	朝と夕に申し送りの機会を設け、その日の状態に合わせたケアを提供できるよう、情報交換とケア内容を周知徹底する場として活用しています。	○	今後同様に取り組んでいきます。
18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	ユニット異動は定期的に行うこととし、入職2年を経過した職員はどのユニットにおいても顔見知りの存在となっており、職員が変わることへのダメージは少なくなるよう配慮しています。	○	今後同様に取り組んでいきます。

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
5. 人材の育成と支援				
19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	経験やステップに応じ、研修の機会を設けています。新入職員にはレクチャーシートを使用して、統一した教育が出来るようにしています。また、ユニットリーダーや経験の長い職員と一緒に業務を行い、仕事に慣れるまで援助する体制をとっています。	○	今後同様に取り組んでいきます。
20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	群馬県地域密着サービス連絡協議会における交流を大切にしています。また、地域のグループホーム管理者と連絡を取り合ったり、交互に訪問するなどサービスの向上につながるよう情報交換を行っています。	○	今後同様に取り組んでいきます。
21	○職員のストレス軽減に向けた取り組み 運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる	職員が気兼ねなく話せるよう休憩室や喫煙室を設け、休憩時間が確実に確保できるよう日課を組んでいます。管理者は職員の訴えに対し、傾聴することを心がけています。その訴えを運営者に繋ぎ、助言等いただき反映できるような体制をとっています。	○	今後同様に取り組んでいきます。
22	○向上心を持って働き続けるための取り組み 運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心を持って働けるように努めている	個人の努力や会社貢献に対して、明確な評価を行うシステムが構築されています。そのことが、職員個々の向上心に繋がっています。	○	今後同様に取り組んでいきます。
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援				
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応				
23	○初期に築く本人との信頼関係 相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	了解を頂いたうえで、入居にいたるまでに、利用中の施設や在宅を訪問し、本人自身から思いを伝えてもらえる機会を設けるようにしています。	○	今後同様に取り組んでいきます。
24	○初期に築く家族との信頼関係 相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	ご家族の都合の許す範囲内で、電話や当ホームに来居いただき相談の機会を設けています。来居いただいた際には、館内案内やホームの説明を行い、求めていることの確認を行い、利用にいたるまでの不安を解消できるように努めています。	○	今後同様に取り組んでいきます。

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
25	○初期対応の見極めと支援 相談を受けた時に、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	相談を受けた際に、他のサービスも含め説明することにより、選択出来る知識を提供するように努めています。また、当ホームで出来ることと出来ないことを説明し、必要としているサービスが受けられるかどうかの判断材料としていただけるようにしています。	○	今後同様に取り組んでいきます。
26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気になじみながら徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	入所前にはご本人に見学をしていただいています。入所してからは職員が観察を行い、入居者様とご家族と相談しながら、ホームの生活になじんでいけるように支援しています。	○	今後同様に取り組んでいきます。
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援				
27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	ケース会議の中では、入居者様の立場に立って考えるようにしています。入居者様と職員とで行うレクリエーションの時間は、一緒に楽しんだり笑ったり出来るような関係を築けるよう努めています。また入居者様の能力に応じ家事的なことをお手伝いしていただいています。	○	今後同様に取り組んでいきます。
28	○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている	入居者様と一緒に支えて行くということを念頭に置き、ご家族が援助することが入居者様にとって良いと思えることはご協力をお願いしています。またご家族に対して行事への参加の声かけを行っています。	○	今後同様に取り組んでいきます。
29	○本人と家族のよりよい関係に向けた支援 これまでの本人と家族との関係の理解に努め、より良い関係が築いていけるように支援している	入居者様とご家族のこれまで過ごしてきた生活を尊重し、入居者様の状態報告を行い様子を知っていただいたり、ご家族の面会を勧めるなどの援助を行っています。	○	今後同様に取り組んでいきます。
30	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	面会に訪れた方とゆったりと気兼ねなく過ごすことが出来るように、環境を整えた上でその場を離れるようにしています。	○	今後同様に取り組んでいきます。
31	○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている	なじみの人や気の合う人と隣り合わせに座れるよう配慮したり、必要に応じて職員が会話の仲介を行うなど、良い関係が築けるように援助しています。	○	今後同様に取り組んでいきます。

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
32	○関係を断ち切らない取り組み サービス利用(契約)が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている	退去される際には、お困りの際にはいつでもご相談いただきたい旨伝えています。また、退去後も移動先の様子などの確認を行っています。	○	今後同様に取り組んでいきます。
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント				
1. 一人ひとりの把握				
33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	アセスメントを行い、暮らし方の希望や意向などの確認をご家族やご本人からおこなっています。また生活する中で会話や状態から意向の把握に努めています。困難な場合は、ご本人本位に考え、ご家族と相談するように努めています。	○	今後同様に取り組んでいきます。
34	○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居する前には、ご本人やご家族から、これまでの暮らしぶりや思いを聞くようにしています。また、入居されてからは、日常の生活の中での会話やご家族の話から、今までの生活を把握できるように努めています。	○	今後同様に取り組んでいきます。
35	○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている	毎日接する職員や、往診医、訪問看護師やご家族などと連携を図りながら、現状を総合的に把握できるように努めています。	○	今後同様に取り組んでいきます。
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し				
36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	ご家族への定期的な報告や面会の際、意向をお聞きするようにしています。職員は「意見交換シート」に気づきや提案を記入したものと、ご家族や入居者様の要望と医療関係者などとの連携の中から頂いた意見をスタッフと共にケース会議で話し合い、介護計画に組み込んでいます。	○	今後同様に取り組んでいきます。
37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	介護計画は定期的に見直しを行っています。また、ご家族の意見や医療関係者、スタッフの意見を踏まえ、計画の変更を行っています。	○	今後同様に取り組んでいきます。

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
38	○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	「経過記録」や「あかぎ日誌」に日々の記録や観察点の記録を行い、職員全体で情報を共有しています。また、職員それぞれの意見や、その場に居ないスタッフからの意見も記入されている「意見交換シート」を活用しケース会議や計画の見直しに役立てています。	○	今後同様に取り組んでいきます。
3. 多機能性を活かした柔軟な支援				
39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	身体的な変化に対しては、訪問看護や往診医との連携により対応するようにしています。また必要に応じ、家族への医療面の説明など行っています。ご家族の介護への要望等の際には、少人数であることから、観察を継続的に行うことも可能であり、対応が図れています。	○	今後同様に取り組んでいきます。
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働				
40	○地域資源との協働 本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している	近隣中学校の職場体験の受入れを行っています。また、ボランティアの方による太鼓や大正琴など、入居者様の意向に沿った支援が出来るように協力を得ています。	○	今後同様に取り組んでいきます。
41	○他のサービスの活用支援 本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネジャーやサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用するための支援をしている	他のサービスを利用することに関しては、現状当ホーム内においてご本人ご家族から特に要望等ないため、そのようなケースは発生していません。但し、福祉用具等に関しては、業者と連絡を取り合い必要なサービス提供に繋げています。	○	今後同様に取り組んでいきます。
42	○地域包括支援センターとの協働 本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している	現在権利擁護を利用する方や要支援の方がいないことから、連携はほとんどありません。	○	今後必要に応じて連携を図りたいと考えています。
43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入居後も以前からのかかりつけ医の受診を希望される場合には継続して受診できるように支援しています。その際ご家族の受診対応が難しい場合には、職員が対応をしています。また、かかりつけ医と往診医や訪問看護師とも連携を図りながら、情報の共有を図るなどの対応を行っています。	○	今後同様に取り組んでいきます。

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
44	○認知症の専門医等の受診支援 専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している	往診医や協力医療機関の意思は、認知症に詳しく積極的に支援や相談にのってくださる医師です。診察している中でも特に専門性が必要な認知に関しては、紹介を頂くなど連携が図れるように支援していただいています。	○	今後同様に取り組んでいきます。
45	○看護職との協働 利用者をよく知る看護職員あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている	医療連携に携わる訪問看護師は同一の看護師が行っています。訪問の際には、継続的な観察をして頂くとともに、特に変化のある入居者様の指示を頂いたり、急変に対しては、電話で昼夜相談にのっていただくことが出来ます。また必要に応じて医師に対しての情報提供をしていただいています。	○	今後同様に取り組んでいきます。
46	○早期退院に向けた医療機関との協働 利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している	入院時及び入院中の入居者様の状態については、病院への訪問などにより、常に情報を共有できるように努めています。また、諸事情により、早期退院の場合も、往診医や訪問看護師と連絡を取り合い、受入れに備えて連携を図っています。	○	今後同様に取り組んでいきます。
47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	重度化や終末期の入居者様の現在の状態と今後の対応については、往診医よりご家族への説明と相談をしていただき、今後の方針を検討しています。その情報を訪問看護師・職員にも伝え、情報を共有しています。	○	今後同様に取り組んでいきます。
48	○重度化や終末期に向けたチームでの支援 重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている	上記内容と同様、ご家族、医師、訪問看護師、職員との連携により、チームとして支援できるように検討や準備を行っています。	○	今後同様に取り組んでいきます。
49	○住み替え時の協働によるダメージの防止 本人が自宅やグループホームから別の居所へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住み替えによるダメージを防ぐことに努めている	住み替え先への関係者の訪問に際しご本人の様子を見ていただき情報を提供しています。また、ご家族やご本人が心配されていることについて問い合わせして、不安なくスムーズに住み替えが出来るように援助しています。	○	今後同様に取り組んでいきます。

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
Ⅳ. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援			
1. その人らしい暮らしの支援			
(1) 一人ひとりの尊重			
50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	○	今後同様に取り組んでいきます。
51	○利用者の希望の表出や自己決定の支援 本人が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援をしている	○	今後同様に取り組んでいきます。
52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	○	今後同様に取り組んでいきます。
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援			
53	○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている	○	今後同様に取り組んでいきます。
54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	○	今後同様に取り組んでいきます。
55	○本人の嗜好の支援 本人が望むお酒、飲み物、おやつ、たばこ等、好みのものを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している	○	今後同様に取り組んでいきます。

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
56	○気持よい排泄の支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している	ケース会議を行う際には、個々の排泄状況や「意見交換シート」を活用し、一人ひとりに合わせた排泄援助が出来るように話し合いを行っています。	○	今後同様に取り組んでいきます。
57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	入浴時間は決めています。身体状況や精神状態により、入浴の声掛けと実施を行い、気持ちよく入浴できるように支援しています。入浴をあまり好まない方には、時間をおいてもう一度声かけを行うなど工夫をしています。	○	今後同様に取り組んでいきます。
58	○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している	入居者様の身体状況に合わせ、日中の休息時間を設けています。日中の活動を通して生活リズムを整えることを心掛け、夜間のベッドへの誘導は、入居者様の生活のペースに合わせています。	○	今後同様に取り組んでいきます。
(3)その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援				
59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	外出の機会を多く設けられるように努力しています。日々の生活の中では、生活歴や趣向に合わせた家事援助やレクリエーションを個別に提供出来るようにしています。	○	今後同様に取り組んでいきます。
60	○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	当ホームでは、金銭の管理は行わないことになっています。そのためお金を所持している方は少ないですが、所持されている方については好みのお菓子を買うなどの際には援助を行っています。	○	今後同様に取り組んでいきます。
61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	明確な外出の希望をされる方はわずかですが、希望された場合には外出の援助を行っています。希望を伝えにくい方については、しぐさやそぶりから判断し、外出の支援を行っています。天候の悪い日には他のユニットに出かけるなど、気分転換が図れるように支援しています。	○	今後同様に取り組んでいきます。
62	○普段行けない場所への外出支援 一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している	月1回外出行事を企画し、入居者様の希望を聞いて場所を決定しています。また、3ヶ月に1度は外食会の企画も行っています。	○	今後同様に取り組んでいきます。

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
63	○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	このユニットで手紙や電話を希望される方はおりませんが、電話での伝言は依頼されますので、相手方に伝え、相手方からの言葉を伝えるなど、仲介役をするなどの支援を行っています。	○	今後同様に取り組んでいきます。
64	○家族や馴染みの人の訪問支援 家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している	面会の方が見えたときには椅子とお茶を用意し、ゆっくりくつろげる雰囲気作りを心がけます。また、職員の目の届かない場所に談話コーナーがあり、気兼ねなく過ごせるスペースを確保してあります。	○	今後同様に取り組んでいきます。
(4) 安心と安全を支える支援				
65	○身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束は一切行ってはいません。職員に対し、研修を受ける機会を設け、理解が深められるような配慮を行っています。サークルや施設も場合によっては身体拘束になり得ることも理解しています。	○	今後同様に取り組んでいきます。
66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	居室に関しては鍵をかけることはありません。玄関に関しては安全性を考えて鍵をかけていますが、そのことによる利用者への心理的な不安や閉塞性などは職員もよく理解しており、できるだけ一緒に外に出る機会などを設けるようにしています。	○	今後同様に取り組んでいきます。
67	○利用者の安全確認 職員は本人のプライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している	居室を訪問する際には、必ずチャイムを押しプライバシーに配慮した上で安否確認を行っています。居室不在時でも、訪室しなければならない時には、ご本人の了解を頂いたうえで入室しています。	○	今後同様に取り組んでいきます。
68	○注意の必要な物品の保管・管理 注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている	このユニットにおいて注意を要する物品を持ち込んでいる方はいませんが、そのような対応が順応出来る体勢があります。	○	今後同様に取り組んでいきます。
69	○事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐための知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる	各々の事項については研修を受けられるようにしています。ヒヤリハットの事例に関しては会議の中で情報共有を図るようにしています。また、他事業所で起きた事故等を会議や送りの中で伝え、予防を図っています。	○	今後同様に取り組んでいきます。

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
70	○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている	救急救命の研修を受けるようにしています。緊急の際の対応については、マニュアルを作成し、職員に説明を行うようにしています。	○	今後同様に取り組んでいきます。
71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	年2回消防署指導の下、避難訓練を実施しています。近隣の商店や住民の方には、日常会話の中で、そのような場合の対応について折に触れて話すようにしています。	○	今後同様に取り組んでいきます。
72	○リスク対応に関する家族等との話し合い 一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にした対応策を話し合っている	状態や状況に合わせて考えられるリスクについては随時説明し、ご理解を頂けるよう話し合っています。	○	今後同様に取り組んでいきます。
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援				
73	○体調変化の早期発見と対応 一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気付いた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている	毎日定時のバイタル測定を行うことと、日々の観察により少しの変化に気付き、体調の変化を見逃さないようにしています。体調の変化がみられた場合にはバイタルチェックを行い報告と記録を行い、必要に応じ訪問看護の助言をいただいで対応します。その情報を申し送りで共有し、適切に対応が出来るようにしています。	○	今後同様に取り組んでいきます。
74	○服薬支援 職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	主な内服についてはよく理解しています。個人ファイルの中に薬情を入れ、全職員が薬の内容を把握できるようにしています。内服に誤りがないよう袋に色分けした日付を記入するなど、正確に内服できるよう努めています。	○	今後同様に取り組んでいきます。
75	○便秘の予防と対応 職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけ等に取り組んでいる	一人ひとりの排便サイクルの観察を行い、水分補給や食事摂取状況が排便に及ぼす影響について考え取り組んでいます。必要に応じ、腹部マッサージを行っています。	○	今後同様に取り組んでいきます。
76	○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている	毎食後口腔衛生の援助を行っています。自分で行える方でも、磨き残しの多い方については確認を行い、口腔内の清潔が保てるよう援助しています。また、歯ブラシの使用が難しい方には、手作りの綿棒で口腔内の清潔を保てるよう支援をしています。	○	今後同様に取り組んでいきます。

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	一人ひとり食事内容が違っており、常食・粥・キザミ・トロミつき等食事を摂取しやすい形態で提供しています。水分についてもトロミをつけた状態で提供するなどの対応を行っています。食事量、水分量については摂取量を記録し、必要な量が摂取出来ているか確認を行っています。	○	今後同様に取り組んでいきます。
78	○感染症予防 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している(インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等)	感染症についての研修を受けています。感染症対応マニュアルと感染予防マニュアルをいつでも閲覧できる場所に設置しています。季節に応じた感染症に対す。インフルエンザについては予防接種を受けています。	○	今後同様に取り組んでいきます。
79	○食材の管理 食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている	食材の保存方法は決められたシステムによって徹底管理されています。食材の賞味期限も定期的に確認し、必要に応じ廃棄し、食材を扱う際の調理器具の消毒を行うなど、安全な食材の使用と衛生管理に努めています。	○	今後同様に取り組んでいきます。
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり				
(1)居心地のよい環境づくり				
80	○安心して出入りできる玄関まわりの工夫 利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている	建物の周囲は植樹し、ハードな建物のイメージを緩和できるよう努めています。	○	今後同様に取り組んでいきます。
81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共有スペースは窓が多く明るい空間となっており、椅子やテーブルが置かれています。季節の花を飾りつけたり、植木を置くなど家庭的な雰囲気、共有空間が居心地の良いものとなるように努めています。	○	今後同様に取り組んでいきます。
82	○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中には、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	重度の方も多いこのユニットですが、スタッフからは目の届かない位置に談話コーナーが設けられ、少数ではありますが、開放的な場所としてうまく活用されています。	○	今後同様に取り組んでいきます。

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	使い慣れた家具や電化製品など置くなど、自由にしていただいています。入居者様の思いで居室を整えることが、精神的な安定につながり、居心地の良いものとなっています。	○	今後同様に取り組んでいきます。
84	○換気・空調の配慮 気になるにおいや空気のだよみがなく換気に努め、温度調節は、外気温と大きな差がないよう配慮し、利用者の状況に応じてこまめに行っている	時間やタイミングを決めて換気を行っています。室温は夏は27度、冬は24度でエアコンを設定し、外気との差を最小限にするよう心がけています。	○	今後同様に取り組んでいきます。
(2) 本人の力の発揮と安全を支える環境づくり				
85	○身体機能を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの身体機能を活かし、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	廊下・トイレ・脱衣室・浴室には手すりを備え付け、床面はフラットになっています。一人ひとりの機能を活かし、安全に動作を行うことが出来るよう配慮された建物となっています。	○	今後同様に取り組んでいきます。
86	○わかる力を活かした環境づくり 一人ひとりのわかる力を活かし、混乱や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫している	居室には自分の居室であることが分かるよう、それぞれの目印が工夫して貼ってあります。夜間でもトイレにひとりで行くことが出来るようトイレ前の電気を一晩中つけています。また、入居者様の好みの物はむやみに移動しないようにしています。	○	今後同様に取り組んでいきます。
87	○建物の外周りや空間の活用 建物の外周りやベランダを利用者が楽しんだり、活動できるように活かしている	建物の外には農園があり、入居者様と一緒に家庭菜園をしています。テラスは広く洗濯物を干すスペースとテーブルを設置しお茶会が出来るスペースを確保し、活用しています。	○	今後同様に取り組んでいきます。

V. サービスの成果に関する項目			
項 目		最も近い選択肢の左欄に○をつけてください。	
88	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	○	①ほぼ全ての利用者の
			②利用者の2/3くらいの
			③利用者の1/3くらいの
			④ほとんど掴んでいない
89	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	○	①毎日ある
			②数日に1回程度ある
			③たまにある
			④ほとんどない
90	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている		①ほぼ全ての利用者が
		○	②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
91	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている		①ほぼ全ての利用者が
		○	②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
92	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている		①ほぼ全ての利用者が
		○	②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
93	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
94	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
95	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている		①ほぼ全ての家族と
		○	②家族の2/3くらいと
			③家族の1/3くらいと
			④ほとんどできていない

項 目		最も近い選択肢の左欄に○をつけてください。	
96	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている		①ほぼ毎日のように
			②数日に1回程度
		○	③たまに
			④ほとんどない
97	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている	○	①大いに増えている
			②少しずつ増えている
			③あまり増えていない
			④全くいない
98	職員は、活き活きと働けている	○	①ほぼ全ての職員が
			②職員の2/3くらいが
			③職員の1/3くらいが
			④ほとんどいない
99	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う		①ほぼ全ての利用者が
		○	②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
100	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う		①ほぼ全ての家族等が
		○	②家族等の2/3くらいが
			③家族等の1/3くらいが
			④ほとんどできていない

【特に力を入れている点・アピールしたい点】

(この欄は、日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入してください。)

グループホームあかぎは、四季折々の季節の移ろいが楽しめる自然豊かな場所にあります。当ホームでは、ご家族様の支援を受けながら、入居者様と職員と明るく笑いの絶えない家庭的な雰囲気の中で生活を送っています。日々の生活は、入居者様のそれまでの生活を大切に、心身の状態や意向や趣味等を踏まえたうえで、その人らしく生活を送ることが出来るよう、きめ細かな援助を行っています。食事の準備や後片付け、洗濯たたみなど家事的なことは、入居者様の自主性を尊重しながら職員と協力して行い、それぞれの役割を持って毎日を過ごすことの出来るよう支援しています。春にはお花見、空には紅葉狩りと自然の多い環境を生かした外出行事、和食や洋食等様々な雰囲気を楽しみながらの外食会、ドライブ、お買い物、季節の行事等変化に富んだ日々折々の行事を行い、入居者様が毎日楽しく過ごされるように考えております。

群馬県 グループホームあかぎ(ユニット2丁目) 地域密着型サービス評価の自己評価票

(☐ 部分は外部評価との共通評価項目です)

取り組んでいきたい項目

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営			
1. 理念と共有			
1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	中度要介護者の多いユニットです。その人らしく尊厳ある生活を営んでいくことを重点におき、ホームでの生活が利用者本位のもので支えていけるように努めています。また、地域で暮らすことを支えるため、地域の人との交流が図れるよう、外出行事や食事会は地域に出かけて行くようにしていますし、慰問など地域の方に来ていただいています。	○ 今後同様に取り組んでいきます。
2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	職員室のよく目につく場所に運営理念を掲示し、共有を図るようにしています。また、申し送りや会議などで、折に触れて理念の理解を深められるよう話しています。	○ 今後同様に取り組んでいきます。
3	○家族や地域への理念の浸透 事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にしたい理念を、家族や地域の人々に理解してもらえよう取り組んでいる	入居契約の際には、必ず口頭で説明し、ご理解を頂けるように努めています。また、運営推進会議や行事など、地域の方々や家族が集う場所で当ホームのありかたなどを折を見て話すようにしています。	○ 今後同様に取り組んでいきます。
2. 地域との支えあい			
4	○隣近所とのつきあい 管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄ってもらえるような日常的なつきあいができるように努めている	近隣の商店には入居者様と一緒に立ち寄り、世間話などをしています。また、外食なども近隣の飲食店に出かけています。	○ 今後同様に取り組んでいきます。
5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	地域で行われる行事への参加や、自治会での新聞回収などに協力し、地元の人との交流が図れるように努めています。また、夏祭りではポスターを地域の掲示板に貼っていただいて、地域の方への参加を呼びかけています。	○ 今後同様に取り組んでいきます。

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
6	○事業所の力を活かした地域貢献 利用者への支援を基盤に、事業所や職員の状況や力に応じて、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる	地域や地元の方からの介護サービスに関する相談などを積極的に受けるようにしています。当ホームへの入居希望に関わることはもちろん、認知症に関する知識やその介護方法などの相談も随時受けています。	○	今後同様に取り組んでいきます。
3. 理念を実践するための制度の理解と活用				
7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	外部評価については、申し送りでその意義について説明した上で評価日時を職員に知らせています。評価結果は、全体会議で全職員に周知し、よい面悪い面を皆で把握し、以降の意識改革につなげて行くようにしています。	○	今後同様に取り組んでいきます。
8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議のメンバーからの意見は、地域や家族から直結した意見として貴重なものと捉え、意見を業務に反映できるように努めています。また、行事などの時に参加いただき、ホームへの理解を深めていただくとともに、ご意見をいただいたことについては、次回に繋げていくように努めています。	○	今後同様に取り組んでいきます。
9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	ホーム内行事に招待したり、役所を訪問した際に情報交換を行っています。	○	今後同様に取り組んでいきます。
10	○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、地域福祉権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している	研修会に参加する機会を設けています。利用する必要があると思われる方がいましたら、いつでも支援できるようにしています。	○	今後同様に取り組んでいきます。
11	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	研修会の機会を設けています。事業所内で虐待が見過ごされることのないよう、受傷した際には虐待によるものでないことを確認しています。また、関わりのある職員にはインシデントレポートの義務付けを行っており、今後受傷しないための対応策を図っています。	○	今後同様に取り組んでいきます。

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
4. 理念を実践するための体制				
12	○契約に関する説明と納得 契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	文書をもって口頭で説明をすることを基本とし、節々に疑問点について確認しながら契約を行います。また、不安や疑問点については、いつでも申し出て欲しい旨お伝えするようにしています。	○	今後同様に取り組んでいきます。
13	○運営に関する利用者意見の反映 利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	利用者が思いを伝えやすいのはご家族であるため、面会や電話連絡の際には、意見を頂くようになっています。また、年1回、無記名でサービスアンケートを行い、率直な意見を頂く機会を設けています。頂いた意見は各会議にて検討し、改善を図るため職員全体で話し合っています。	○	今後同様に取り組んでいきます。
14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	面会の際には、随時状態報告を行っています。面会の少ないご家族に関しては定期的に電話での報告やホーム便りで定期的にホームでの生活の様子を伝えています。	○	今後同様に取り組んでいきます。
15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	面会の際には必ず声をかけ、入居者の状態を報告するとともに、ご意見をうかがうようになっています。ご意見を頂いた際には、申し送り等で職員に周知するなど、今後のホームの対応に反映できるようにしています。	○	今後同様に取り組んでいきます。
16	○運営に関する職員意見の反映 運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	各担当会議やユニット会議において、職員各自の意見を出せる機会を設けています。出された意見については、有効に運営に反映させています。	○	今後同様に取り組んでいきます。
17	○柔軟な対応に向けた勤務調整 利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保するための話し合いや勤務の調整に努めている	朝と夕に申し送りの機会を設け、その日の状態に合わせたケアを提供できるよう、情報交換とケア内容を周知徹底する場として活用しています。	○	今後同様に取り組んでいきます。
18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	ユニット異動は定期的に行うこととし、入職2年を経過した職員はどのユニットにおいても顔見知りの存在となっており、職員が変わることへのダメージは少なくなるよう配慮しています。	○	今後同様に取り組んでいきます。

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
5. 人材の育成と支援				
19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	経験やステップに応じ、研修の機会を設けています。新入職員にはレクチャーシートを使用して、統一した教育が出来るようにしています。また、ユニットリーダーや経験の長い職員と一緒に業務を行い、仕事に慣れるまで援助する体制をとっています。	○	今後同様に取り組んでいきます。
20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	群馬県地域密着サービス連絡協議会における交流を大切にしています。また、地域のグループホーム管理者と連絡を取り合ったり、交互に訪問するなどサービスの向上につながるよう情報交換を行っています。	○	今後同様に取り組んでいきます。
21	○職員のストレス軽減に向けた取り組み 運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる	職員が気兼ねなく話せるよう休憩室や喫煙室を設け、休憩時間が確実に確保できるよう日課を組んでいます。管理者は職員の訴えに対し、傾聴することを心がけています。その訴えを運営者に繋ぎ、助言等いただき反映できるような体制をとっています。	○	今後同様に取り組んでいきます。
22	○向上心を持って働き続けるための取り組み 運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心を持って働けるように努めている	個人の努力や会社貢献に対して、明確な評価を行うシステムが構築されています。そのことが、職員個々の向上心に繋がっています。	○	今後同様に取り組んでいきます。
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援				
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応				
23	○初期に築く本人との信頼関係 相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	了解を頂いたうえで、入居にいたるまでに、利用中の施設や在宅を訪問し、本人自身から思いを伝えてもらえる機会を設けるようにしています。	○	今後同様に取り組んでいきます。
24	○初期に築く家族との信頼関係 相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	ご家族の都合の許す範囲内で、電話や当ホームに来居いただき相談の機会を設けています。来居いただいた際には、館内案内やホームの説明を行い、求めていることの確認を行い、利用にいたるまでの不安を解消できるように努めています。	○	今後同様に取り組んでいきます。

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
25	○初期対応の見極めと支援 相談を受けた時に、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	相談を受けた際に、他のサービスも含め説明することにより、選択出来る知識を提供するように努めています。また、当ホームで出来ることと出来ないことを説明し、必要としているサービスが受けられるかどうかの判断材料としていただけるようにしています。	○	今後同様に取り組んでいきます。
26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気になじみながら徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	入所前にはご本人に見学をしていただいています。入所してからは職員が観察を行い、入居者様とご家族と相談しながら、ホームの生活になじんでいけるように支援しています。	○	今後同様に取り組んでいきます。
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援				
27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	ケース会議の中では、入居者様の立場に立って考えるようにしています。入居者様と職員とで行うレクリエーションの時間は、一緒に楽しんだり笑ったり出来るような関係を築けるよう努めています。また入居者様の能力に応じ家事的なことをお手伝いしていただいています。	○	今後同様に取り組んでいきます。
28	○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている	入居者様と一緒に支えて行くということを念頭に置き、ご家族が援助することが入居者様にとって良いと思えることはご協力をお願いしています。またご家族に対して行事への参加の声かけを行っています。	○	今後同様に取り組んでいきます。
29	○本人と家族のよりよい関係に向けた支援 これまでの本人と家族との関係の理解に努め、より良い関係が築いていけるように支援している	入居者様とご家族のこれまで過ごしてきた生活を尊重し、入居者様の状態報告を行い様子を知っていただいたり、ご家族の面会を勧めるなどの援助を行っています。	○	今後同様に取り組んでいきます。
30	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	面会に訪れた方とゆったりと気兼ねなく過ごすことが出来るように、環境を整えた上でその場を離れるようにしています。	○	今後同様に取り組んでいきます。
31	○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている	なじみの人や気の合う人と隣り合わせに座れるよう配慮したり、必要に応じて職員が会話の仲介を行うなど、良い関係が築けるように援助しています。	○	今後同様に取り組んでいきます。

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
32	○関係を断ち切らない取り組み サービス利用(契約)が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている	退去される際には、お困りの際にはいつでもご相談いただきたい旨伝えていきます。また、退去後も移動先の様子などの確認を行っています。	○	今後同様に取り組んでいきます。
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント				
1. 一人ひとりの把握				
33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	アセスメントを行い、暮らし方の希望や意向などの確認をご家族やご本人からおこなっています。また生活する中で会話や状態から意向の把握に努めています。困難な場合は、ご本人本位に考え、ご家族と相談するように努めています。	○	今後同様に取り組んでいきます。
34	○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居する前には、ご本人やご家族から、これまでの暮らしぶりや思いを聞くようにしています。また、入居されてからは、日常の生活の中での会話やご家族の話から、今までの生活を把握できるように努めています。	○	今後同様に取り組んでいきます。
35	○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている	毎日接する職員や、往診医、訪問看護師やご家族などと連携を図りながら、現状を総合的に把握できるように努めています。	○	今後同様に取り組んでいきます。
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し				
36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	ご家族への定期的な報告や面会の際、意向をお聞きするようにしています。職員は「意見交換シート」に気づきや提案を記入したものと、ご家族や入居者様の要望と医療関係者などとの連携の中から頂いた意見をスタッフと共にケース会議で話し合い、介護計画に組み込んでいきます。	○	今後同様に取り組んでいきます。
37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じた見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	介護計画は定期的に見直しを行っています。また、ご家族の意見や医療関係者、スタッフの意見を踏まえ、計画の変更を行っています。	○	今後同様に取り組んでいきます。

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
38	○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	「経過記録」や「あかぎ日誌」に日々の記録や観察点の記録を行い、職員全体で情報を共有しています。また、職員それぞれの意見や、その場に居ないスタッフからの意見も記入されている「意見交換シート」を活用しケース会議や計画の見直しに役立てています。	○	今後同様に取り組んでいきます。
3. 多機能性を活かした柔軟な支援				
39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	身体的な変化に対しては、訪問看護や往診医との連携により対応するようにしています。また必要に応じ、家族への医療面の説明など行っています。ご家族の介護への要望等の際には、少人数であることから、観察を継続的に行うことも可能であり、対応が図れています。	○	今後同様に取り組んでいきます。
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働				
40	○地域資源との協働 本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している	近隣中学校の職場体験の受入れを行っています。また、ボランティアの方による太鼓や大正琴など、入居者様の意向に沿った支援が出来るように協力を得ています。	○	今後同様に取り組んでいきます。
41	○他のサービスの活用支援 本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネジャーやサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用するための支援をしている	他のサービスを利用することに関しては、現状当ホーム内においてご本人ご家族から特に要望等ないため、そのようなケースは発生していません。但し、福祉用具等に関しては、業者と連絡を取り合い必要なサービス提供に繋げています。	○	今後同様に取り組んでいきます。
42	○地域包括支援センターとの協働 本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している	ご家族からの要望があり権利擁護について連絡を取り、手続き方法など確認し情報として提供しました。今のところ利用には結びついてはいませんが、今後必要な時には援助していく予定です。	○	今後同様に取り組んでいきます。
43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入居後も以前からのかかりつけ医の受診を希望される場合には継続して受診できるように支援しています。その際ご家族の受診対応が難しい場合には、職員が対応をしています。また、かかりつけ医と往診医や訪問看護師とも連携を図りながら、情報の共有を図るなどの対応を行っています。	○	今後同様に取り組んでいきます。

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
44	○認知症の専門医等の受診支援 専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している	往診医や協力医療機関の意思は、認知症に詳しく積極的に支援や相談にのってくださる医師です。診察している中でも特に専門性が必要な認知に関しては、紹介を頂くなど連携が図れるように支援していただいています。	○	今後同様に取り組んでいきます。
45	○看護職との協働 利用者をよく知る看護職員あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている	医療連携に携わる訪問看護師は同一の看護師が行っています。訪問の際には、継続的な観察をして頂くとともに、特に変化のある入居者様の指示を頂いたり、急変に対しては、電話で昼夜相談にのっていただくことが出来ます。また必要に応じて医師に対しての情報提供をしていただいています。	○	今後同様に取り組んでいきます。
46	○早期退院に向けた医療機関との協働 利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している	入院時及び入院中の入居者様の状態については、病院への訪問などにより、常に情報を共有できるように努めています。また、諸事情により、早期退院の場合も、往診医や訪問看護師と連絡を取り合い、受入れに備えて連携を図っています。	○	今後同様に取り組んでいきます。
47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	重度化や終末期の入居者様の現在の状態と今後の対応については、往診医よりご家族への説明と相談をしていただき、今後の方針を検討しています。その情報を訪問看護師・職員にも伝え、情報を共有しています。	○	今後同様に取り組んでいきます。
48	○重度化や終末期に向けたチームでの支援 重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている	上記内容と同様、ご家族、医師、訪問看護師、職員との連携により、チームとして支援できるように検討や準備を行っています。	○	今後同様に取り組んでいきます。
49	○住み替え時の協働によるダメージの防止 本人が自宅やグループホームから別の居所へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住み替えによるダメージを防ぐことに努めている	住み替え先への関係者の訪問に際しご本人の様子を見ていただき情報を提供しています。また、ご家族やご本人が心配されていることについて問い合わせして、不安なくスムーズに住み替えが出来るように援助しています。	○	今後同様に取り組んでいきます。

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
Ⅳ. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援			
1. その人らしい暮らしの支援			
(1)一人ひとりの尊重			
50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	○	今後同様に取り組んでいきます。
51	○利用者の希望の表出や自己決定の支援 本人が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援をしている	○	今後同様に取り組んでいきます。
52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	○	今後同様に取り組んでいきます。
(2)その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援			
53	○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている	○	今後同様に取り組んでいきます。
54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	○	今後同様に取り組んでいきます。
55	○本人の嗜好の支援 本人が望むお酒、飲み物、おやつ、たばこ等、好みのものを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している	○	今後同様に取り組んでいきます。

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
56	○気持よい排泄の支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している	ケース会議を行う際には、個々の排泄状況や「意見交換シート」を活用し、一人ひとりに合わせた排泄援助が出来るように話し合いを行っています。	○	今後同様に取り組んでいきます。
57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	入浴時間は決めています。身体状況や精神状態により、入浴の声掛けと実施を行い、気持ちよく入浴できるように支援しています。入浴をあまり好まない方には、時間をおいてもう一度声かけを行うなど工夫をしています。	○	今後同様に取り組んでいきます。
58	○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している	入居者様の身体状況に合わせ、日中の休息時間を設けています。日中の活動を通して生活リズムを整えることを心掛け、夜間のベッドへの誘導は、入居者様の生活のペースに合わせています。	○	今後同様に取り組んでいきます。
(3)その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援				
59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	外出の機会を多く設けられるように努力しています。日々の生活の中では、生活歴や趣向に合わせた家事援助やレクリエーションを個別に提供出来るようにしています。	○	今後同様に取り組んでいきます。
60	○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	当ホームでは、金銭の管理は行わないことになっています。そのためお金を所持している方は少ないですが、所持されている方については好みのお菓子を買うなどの際には援助を行っています。	○	今後同様に取り組んでいきます。
61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	明確な外出の希望をされる方はわずかですが、希望された場合には外出の援助を行っています。希望を伝えにくい方については、しぐさやそぶりから判断し、外出の支援を行っています。天候の悪い日には他のユニットに出かけるなど、気分転換が図れるように支援しています。	○	今後同様に取り組んでいきます。
62	○普段行けない場所への外出支援 一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している	月1回外出行事を企画し、入居者様の希望を聞いて場所を決定しています。また、3ヶ月に1度は外食会の企画も行っています。	○	今後同様に取り組んでいきます。

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
63	○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	手紙を書いて、郵送を職員に依頼する方がいますので、援助を行っています。電話での伝言は依頼されますので、相手方に伝え、相手方からの言葉を伝えるなど、仲介役をするなどの支援を行っています。	○	今後同様に取り組んでいきます。
64	○家族や馴染みの人の訪問支援 家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している	面会の方が見えたときには椅子とお茶を用意し、ゆっくりくつろげる雰囲気作りを心がけます。また、職員の目の届かない場所に談話コーナーがあり、気兼ねなく過ごせるスペースを確保してあります。	○	今後同様に取り組んでいきます。
(4) 安心と安全を支える支援				
65	○身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束は一切行ってはいません。職員に対し、研修を受ける機会を設け、理解が深められるような配慮を行っています。サークルや施設も場合によっては身体拘束になり得ることも理解しています。	○	今後同様に取り組んでいきます。
66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	居室に関しては鍵をかけることはありません。玄関に関しては安全性を考えて鍵をかけていますが、そのことによる利用者への心理的な不安や閉塞性などは職員もよく理解しており、できるだけ一緒に外に出る機会などを設けるようにしています。	○	今後同様に取り組んでいきます。
67	○利用者の安全確認 職員は本人のプライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している	居室を訪問する際には、必ずチャイムを押しプライバシーに配慮した上で安否確認を行っています。居室不在時でも、訪室しなければならない時には、ご本人の了解を頂いたうえで入室しています。	○	今後同様に取り組んでいきます。
68	○注意の必要な物品の保管・管理 注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている	このユニットにおいて注意を要する物品を持ち込んでいる方はいませんが、そのような対応が順応出来る体勢があります。	○	今後同様に取り組んでいきます。
69	○事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐための知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる	各々の事項については研修を受けられるようにしています。ヒヤリハットの事例に関しては会議の中で情報共有を図るようにしています。また、他事業所で起きた事故等を会議や申し送りの中で伝え、予防を図っています。	○	今後同様に取り組んでいきます。

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
70	○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている	救急救命の研修を受けるようにしています。緊急の際の対応については、マニュアルを作成し、職員に説明を行うようにしています。	○	今後同様に取り組んでいきます。
71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	年2回消防署指導の下、避難訓練を実施しています。近隣の商店や住民の方には、日常会話の中で、そのような場合の対応について折に触れて話すようにしています。	○	今後同様に取り組んでいきます。
72	○リスク対応に関する家族等との話し合い 一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にした対応策を話し合っている	状態や状況に合わせて考えられるリスクについては随時説明し、ご理解を頂けるよう話し合っています。	○	今後同様に取り組んでいきます。
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援				
73	○体調変化の早期発見と対応 一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気付いた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている	毎日定時のバイタル測定を行うことと、日々の観察により少しの変化に気付き、体調の変化を見逃さないようにしています。体調の変化がみられた場合にはバイタルチェックを行い報告と記録を行い、必要に応じ訪問看護の助言をいただいで対応します。その情報を申し送りで共有し、適切に対応が出来るようにしています。	○	今後同様に取り組んでいきます。
74	○服薬支援 職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	主な内服についてはよく理解しています。個人ファイルの中に薬情を入れ、全職員が薬の内容を把握できるようにしています。内服に誤りがないよう袋に色分けした日付を記入するなど、正確に内服できるよう努めています。	○	今後同様に取り組んでいきます。
75	○便秘の予防と対応 職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけ等に取り組んでいる	一人ひとりの排便サイクルの観察を行い、水分補給や食事摂取状況が排便に及ぼす影響について考え取り組んでいます。	○	今後同様に取り組んでいきます。
76	○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている	毎食後口腔衛生の援助を行っています。自分で行える方でも、磨き残しの多い方については確認を行い、口腔内の清潔が保てるよう援助しています。また、歯ブラシの使用が難しい方には、手作りの綿棒で口腔内の清潔を保てるよう支援をしています。	○	今後同様に取り組んでいきます。

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	一人ひとり食事内容が違っており、常食・粥・キザミ・トロミつき等食事を摂取しやすい形態で提供しています。水分についてもトロミをつけたり、ゼリーにしたり、好みの飲み物で提供するなどの対応を行っています。食事量、水分量については摂取量を記録し、必要な量が摂取出来ているか確認を行っています。	○	今後同様に取り組んでいきます。
78	○感染症予防 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している(インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等)	感染症についての研修を受けています。感染症対応マニュアルと感染予防マニュアルをいつでも閲覧できる場所に設置しています。季節に応じた感染症に対す。インフルエンザについては予防接種を受けています。	○	今後同様に取り組んでいきます。
79	○食材の管理 食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている	食材の保存方法は決められたシステムによって徹底管理されています。食材の賞味期限も定期的に確認し、必要に応じ廃棄し、食材を扱う際の調理器具の消毒を行うなど、安全な食材の使用と衛生管理に努めています。	○	今後同様に取り組んでいきます。
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり				
(1)居心地のよい環境づくり				
80	○安心して出入りできる玄関まわりの工夫 利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている	建物の周囲は植樹し、ハードな建物のイメージを緩和できるよう努めています。	○	今後同様に取り組んでいきます。
81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共有スペースは窓が多く明るい空間となっており、椅子やテーブルが置かれています。季節の花を飾りつけたり、植木を置くなど家庭的な雰囲気、共有空間が居心地の良いものとなるように努めています。	○	今後同様に取り組んでいきます。
82	○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中には、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	スタッフからは目の届かない位置に談話コーナーが設けられ、少数ではありますが、開放的な場所としてうまく活用されています。	○	今後同様に取り組んでいきます。

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	使い慣れた家具や電化製品や写真を置くなど、自由にしています。入居者様の思いで居室を整えることが、精神的な安定につながり、居心地の良いものとなっています。	○	今後同様に取り組んでいきます。
84	○換気・空調の配慮 気になるにおいや空気のだよみがなく換気に努め、温度調節は、外気温と大きな差がないよう配慮し、利用者の状況に応じてこまめに行っている	時間やタイミングを決めて換気を行っています。室温は夏は27度、冬は24度でエアコンを設定し、外気との差を最小限にするよう心がけています。	○	今後同様に取り組んでいきます。
(2) 本人の力の発揮と安全を支える環境づくり				
85	○身体機能を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの身体機能を活かし、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	廊下・トイレ・脱衣室・浴室には手すりを備え付け、床面はフラットになっています。一人ひとりの機能を活かし、安全に動作を行うことが出来るよう配慮された建物となっています。	○	今後同様に取り組んでいきます。
86	○わかる力を活かした環境づくり 一人ひとりのわかる力を活かし、混乱や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫している	居室には自分の居室であることが分かるよう、それぞれの目印が工夫して貼ってあります。夜間でもトイレにひとりで行くことが出来るようトイレ前の電気を一晩中つけています。また、入居者様の好みの物はむやみに移動しないようにしています。	○	今後同様に取り組んでいきます。
87	○建物の外周りや空間の活用 建物の外周りやベランダを利用者が楽しんだり、活動できるように活かしている	建物の外には農園があり、入居者様と一緒に家庭菜園をしています。テラスは広く洗濯物を干すスペースとテーブルを設置しお茶会が出来るスペースを確保し、活用しています。	○	今後同様に取り組んでいきます。

V. サービスの成果に関する項目			
項 目		最も近い選択肢の左欄に○をつけてください。	
88	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	○	①ほぼ全ての利用者の
			②利用者の2/3くらいの
			③利用者の1/3くらいの
			④ほとんど掴んでいない
89	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	○	①毎日ある
			②数日に1回程度ある
			③たまにある
			④ほとんどない
90	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
91	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
92	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
93	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
94	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
95	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています	○	①ほぼ全ての家族と
			②家族の2/3くらいと
			③家族の1/3くらいと
			④ほとんどできていない

項 目		最も近い選択肢の左欄に○をつけてください。	
96	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている		①ほぼ毎日のように
			②数日に1回程度
		○	③たまに
			④ほとんどない
97	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている	○	①大いに増えている
			②少しずつ増えている
			③あまり増えていない
			④全くいない
98	職員は、生き活きと働けている	○	①ほぼ全ての職員が
			②職員の2/3くらいが
			③職員の1/3くらいが
			④ほとんどいない
99	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
100	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う		①ほぼ全ての家族等が
		○	②家族等の2/3くらいが
			③家族等の1/3くらいが
			④ほとんどできていない

【特に力を入れている点・アピールしたい点】

(この欄は、日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入してください。)

グループホームあかぎは、四季折々の季節の移ろいが楽しめる自然豊かな場所にあります。当ホームでは、ご家族様の支援を受けながら、入居者様と職員と明るく笑いの絶えない家庭的な雰囲気の中で生活を送っています。日々の生活は、入居者様のそれまでの生活を大切に、心身の状態や意向や趣味等を踏まえたうえで、その人らしく生活を送ることが出来るよう、きめ細かな援助を行っています。食事の準備や後片付け、洗濯たたみなど家事的なことは、入居者様の自主性を尊重しながら職員と協力して行い、それぞれの役割を持って毎日を過ごすことの出来るよう支援しています。春にはお花見、空には紅葉狩りと自然の多い環境を生かした外出行事、和食や洋食等様々な雰囲気を楽しみながらの外食会、ドライブ、お買い物、季節の行事等変化に富んだ日々折々の行事を行い、入居者様が毎日楽しく過ごされるように考えております。

群馬県 グループホームあかぎ(ユニット3丁目) 地域密着型サービス評価の自己評価票

(☐ 部分は外部評価との共通評価項目です)

取り組んでいきたい項目

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営			
1. 理念と共有			
1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	軽度度要介護者の多いユニットです。その人らしく尊厳ある生活を営んでいくことを重点におき、ホームでの生活が利用者本位のものとして支えていけるように努めています。また、地域で暮らすことを支えるため、地域の人との交流が図れるよう、外出行事や食事会は地域に出かけて行くようにしていますし、慰問など地域の方に来ていただいています。	○ 今後同様に取り組んでいきます。
2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	職員室のよく目につく場所に運営理念を掲示し、共有を図るようにしています。また、申し送りや会議などで、折に触れて理念の理解を深められるよう話しています。	○ 今後同様に取り組んでいきます。
3	○家族や地域への理念の浸透 事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にしたい理念を、家族や地域の人々に理解してもらえよう取り組んでいる	入居契約の際には、必ず口頭で説明し、ご理解を頂けるように努めています。また、運営推進会議や行事など、地域の方々や家族が集う場所で当ホームのありかたなどを折を見て話すようにしています。	○ 今後同様に取り組んでいきます。
2. 地域との支えあい			
4	○隣近所とのつきあい 管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄ってもらえるような日常的なつきあいができるように努めている	近隣の商店には入居者様と一緒に立ち寄り、世間話などを行っています。また、外食なども近隣の飲食店に出かけています。	○ 今後同様に取り組んでいきます。
5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	地域で行われる行事への参加や、自治会での新聞回収などに協力し、地元の人との交流が図れるように努めています。また、夏祭りではポスターを地域の掲示板に貼っていただいて、地域の方への参加を呼びかけています。	○ 今後同様に取り組んでいきます。

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
6	○事業所の力を活かした地域貢献 利用者への支援を基盤に、事業所や職員の状況や力に応じて、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる	地域や地元の方からの介護サービスに関する相談などを積極的に受けるようにしています。当ホームへの入居希望に関わることはもちろん、認知症に関する知識やその介護方法などの相談も随時受けています。	○	今後同様に取り組んでいきます。
3. 理念を実践するための制度の理解と活用				
7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	外部評価については、申し送りでその意義について説明した上で評価日時を職員に知らせています。評価結果は、全体会議で全職員に周知し、よい面悪い面を皆で把握し、以降の意識改革につなげて行くようにしています。	○	今後同様に取り組んでいきます。
8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議のメンバーからの意見は、地域や家族から直結した意見として貴重なものと捉え、意見を業務に反映できるように努めています。また、行事などの時に参加いただき、ホームへの理解を深めていただくとともに、ご意見をいただいたことについては、次回に繋げていくように努めています。	○	今後同様に取り組んでいきます。
9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	ホーム内行事に招待したり、役所を訪問した際に情報交換を行っています。	○	今後同様に取り組んでいきます。
10	○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、地域福祉権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している	研修会に参加する機会を設けています。利用する必要があると思われる方がいましたら、いつでも支援できるようにしています。	○	今後同様に取り組んでいきます。
11	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	研修会の機会を設けています。事業所内で虐待が見過ごされることのないよう、受傷した際には虐待によるものでないことを確認しています。また、関わりのある職員にはインシデントレポートの義務付けを行っており、今後受傷しないための対応策を図っています。	○	今後同様に取り組んでいきます。

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
4. 理念を実践するための体制				
12	○契約に関する説明と納得 契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	文書をもって口頭で説明をすることを基本とし、節々に疑問点について確認しながら契約を行います。また、不安や疑問点については、いつでも申し出て欲しい旨お伝えするようにしています。	○	今後同様に取り組んでいきます。
13	○運営に関する利用者意見の反映 利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	利用者が思いを伝えやすいのはご家族であるため、面会や電話連絡の際には、意見を頂くようになっています。また、年1回、無記名でサービスアンケートを行い、率直な意見を頂く機会を設けています。頂いた意見は各会議にて検討し、改善を図るため職員全体で話し合っています。	○	今後同様に取り組んでいきます。
14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	面会の際には、随時状態報告を行っています。面会の少ないご家族に関しては定期的に電話での報告やホーム便りで定期的にホームでの生活の様子を伝えています。	○	今後同様に取り組んでいきます。
15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	面会の際には必ず声をかけ、入居者の状態を報告するとともに、ご意見をうかがうようになっています。ご意見を頂いた際には、申し送り等で職員に周知するなど、今後のホームの対応に反映できるようにしています。	○	今後同様に取り組んでいきます。
16	○運営に関する職員意見の反映 運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	各担当会議やユニット会議において、職員各自の意見を出せる機会を設けています。出された意見については、有効に運営に反映させています。	○	今後同様に取り組んでいきます。
17	○柔軟な対応に向けた勤務調整 利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保するための話し合いや勤務の調整に努めている	朝と夕に申し送りの機会を設け、その日の状態に合わせたケアを提供できるよう、情報交換とケア内容を周知徹底する場として活用しています。	○	今後同様に取り組んでいきます。
18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	ユニット異動は定期的に行うこととし、入職2年を経過した職員はどのユニットにおいても顔見知りの存在となっており、職員が変わることへのダメージは少なくなるよう配慮しています。	○	今後同様に取り組んでいきます。

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
5. 人材の育成と支援				
19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	経験やステップに応じ、研修の機会を設けています。新入職員にはレクチャーシートを使用して、統一した教育が出来るようにしています。また、ユニットリーダーや経験の長い職員と一緒に業務を行い、仕事に慣れるまで援助する体制をとっています。	○	今後同様に取り組んでいきます。
20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	群馬県地域密着サービス連絡協議会における交流を大切にしています。また、地域のグループホーム管理者と連絡を取り合ったり、交互に訪問するなどサービスの向上につながるよう情報交換を行っています。	○	今後同様に取り組んでいきます。
21	○職員のストレス軽減に向けた取り組み 運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる	職員が気兼ねなく話せるよう休憩室や喫煙室を設け、休憩時間が確実に確保できるよう日課を組んでいます。管理者は職員の訴えに対し、傾聴することを心がけています。その訴えを運営者に繋ぎ、助言等いただき反映できるような体制をとっています。	○	今後同様に取り組んでいきます。
22	○向上心を持って働き続けるための取り組み 運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心を持って働けるように努めている	個人の努力や会社貢献に対して、明確な評価を行うシステムが構築されています。そのことが、職員個々の向上心に繋がっています。	○	今後同様に取り組んでいきます。
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援				
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応				
23	○初期に築く本人との信頼関係 相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	了解を頂いたうえで、入居にいたるまでに、利用中の施設や在宅を訪問し、本人自身から思いを伝えてもらえる機会を設けるようにしています。	○	今後同様に取り組んでいきます。
24	○初期に築く家族との信頼関係 相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	ご家族の都合の許す範囲内で、電話や当ホームに来居いただき相談の機会を設けています。来居いただいた際には、館内案内やホームの説明を行い、求めていることの確認を行い、利用にいたるまでの不安を解消できるように努めています。	○	今後同様に取り組んでいきます。

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
25	○初期対応の見極めと支援 相談を受けた時に、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	相談を受けた際に、他のサービスも含め説明することにより、選択出来る知識を提供するように努めています。また、当ホームで出来ることと出来ないことを説明し、必要としているサービスが受けられるかどうかの判断材料としていただけるようにしています。	○	今後同様に取り組んでいきます。
26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気になじみながら徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	入所前にはご本人に見学をしていただいています。入所してからは職員が観察を行い、入居者様とご家族と相談しながら、ホームの生活になじんでいけるように支援しています。	○	今後同様に取り組んでいきます。
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援				
27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	ケース会議の中では、入居者様の立場に立って考えるようにしています。入居者様と職員とで行うレクリエーションの時間は、一緒に楽しんだり笑ったり出来るような関係を築けるよう努めています。また入居者様の能力に応じ家事的なことをお手伝いしていただいています。	○	今後同様に取り組んでいきます。
28	○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている	入居者様と一緒に支えて行くということを念頭に置き、ご家族が援助することが入居者様にとって良いと思えることはご協力をお願いしています。またご家族に対して行事への参加の声かけを行っています。	○	今後同様に取り組んでいきます。
29	○本人と家族のよりよい関係に向けた支援 これまでの本人と家族との関係の理解に努め、より良い関係が築いていけるように支援している	入居者様とご家族のこれまで過ごしてきた生活を尊重し、入居者様の状態報告を行い様子を知っていただいたり、ご家族の面会を勧めるなどの援助を行っています。	○	今後同様に取り組んでいきます。
30	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	面会に訪れた方とゆったりと気兼ねなく過ごすことが出来るように、環境を整えた上でその場を離れるようにしています。	○	今後同様に取り組んでいきます。
31	○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている	なじみの人や気の合う人と隣り合わせに座れるよう配慮したり、必要に応じて職員が会話の仲介を行うなど、良い関係が築けるように援助しています。	○	今後同様に取り組んでいきます。

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
32	○関係を断ち切らない取り組み サービス利用(契約)が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている	退去される際には、お困りの際にはいつでもご相談いただきたい旨伝えていきます。また、退去後も移動先の様子などの確認を行っています。	○	今後同様に取り組んでいきます。
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント				
1. 一人ひとりの把握				
33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	アセスメントを行い、暮らし方の希望や意向などの確認をご家族やご本人からおこなっています。また生活する中で会話や状態から意向の把握に努めています。困難な場合は、ご本人本位に考え、ご家族と相談するように努めています。	○	今後同様に取り組んでいきます。
34	○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居する前には、ご本人やご家族から、これまでの暮らしぶりや思いを聞くようにしています。また、入居されてからは、日常の生活の中での会話やご家族の話から、今までの生活を把握できるように努めています。	○	今後同様に取り組んでいきます。
35	○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている	毎日接する職員や、往診医、訪問看護師やご家族などと連携を図りながら、現状を総合的に把握できるように努めています。	○	今後同様に取り組んでいきます。
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し				
36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	ご家族への定期的な報告や面会の際、意向をお聞きするようにしています。職員は「意見交換シート」に気づきや提案を記入したものと、ご家族や入居者様の要望と医療関係者などとの連携の中から頂いた意見をスタッフと共にケース会議で話し合い、介護計画に組み込んでいきます。	○	今後同様に取り組んでいきます。
37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	介護計画は定期的に見直しを行っています。また、ご家族の意見や医療関係者、スタッフの意見を踏まえ、計画の変更を行っています。	○	今後同様に取り組んでいきます。

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
38	○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	「経過記録」や「あかぎ日誌」に日々の記録や観察点の記録を行い、職員全体で情報を共有しています。また、職員それぞれの意見や、その場に居ないスタッフからの意見も記入されている「意見交換シート」を活用しケース会議や計画の見直しに役立てています。	○	今後同様に取り組んでいきます。
3. 多機能性を活かした柔軟な支援				
39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	身体的な変化に対しては、訪問看護や往診医との連携により対応するようにしています。また必要に応じ、家族への医療面の説明など行っています。ご家族の介護への要望等の際には、少人数であることから、観察を継続的に行うことも可能であり、対応が図れています。	○	今後同様に取り組んでいきます。
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働				
40	○地域資源との協働 本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している	近隣中学校の職場体験の受入れを行っています。また、ボランティアの方による太鼓や大正琴など、入居者様の意向に沿った支援が出来るように協力を得ています。	○	今後同様に取り組んでいきます。
41	○他のサービスの活用支援 本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネジャーやサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用するための支援をしている	他のサービスを利用することに関しては、現状当ホーム内においてご本人ご家族から特に要望等ないため、そのようなケースは発生していません。但し、福祉用具等に関しては、業者と連絡を取り合い必要なサービス提供に繋げています。	○	今後同様に取り組んでいきます。
42	○地域包括支援センターとの協働 本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している	現在権利擁護を利用する方や要支援の方がいないことから、連携はほとんどありません。	○	今後必要に応じて連携を図りたいと考えています。
43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入居後も以前からのかかりつけ医の受診を希望される場合には継続して受診できるように支援しています。その際ご家族の受診対応が難しい場合には、職員が対応をしています。また、かかりつけ医と往診医や訪問看護師とも連携を図りながら、情報の共有を図るなどの対応を行っています。	○	今後同様に取り組んでいきます。

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
44	○認知症の専門医等の受診支援 専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している	往診医や協力医療機関の意思は、認知症に詳しく積極的に支援や相談にのってくださる医師です。診察している中でも特に専門性が必要な認知に関しては、紹介を頂くなど連携が図れるように支援していただいています。	○	今後同様に取り組んでいきます。
45	○看護職との協働 利用者をよく知る看護職員あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている	医療連携に携わる訪問看護師は同一の看護師が行っています。訪問の際には、継続的な観察をして頂くとともに、特に変化のある入居者様の指示を頂いたり、急変に対しては、電話で昼夜相談にのっていただくことが出来ます。また必要に応じて医師に対しての情報提供をしていただいています。	○	今後同様に取り組んでいきます。
46	○早期退院に向けた医療機関との協働 利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している	入院時及び入院中の入居者様の状態については、病院への訪問などにより、常に情報を共有できるように努めています。また、諸事情により、早期退院の場合も、往診医や訪問看護師と連絡を取り合い、受入れに備えて連携を図っています。	○	今後同様に取り組んでいきます。
47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	重度化や終末期の入居者様の現在の状態と今後の対応については、往診医よりご家族への説明と相談をしていただき、今後の方針を検討しています。その情報を訪問看護師・職員にも伝え、情報を共有しています。	○	今後同様に取り組んでいきます。
48	○重度化や終末期に向けたチームでの支援 重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている	上記内容と同様、ご家族、医師、訪問看護師、職員との連携により、チームとして支援できるように検討や準備を行っています。	○	今後同様に取り組んでいきます。
49	○住み替え時の協働によるダメージの防止 本人が自宅やグループホームから別の居所へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住み替えによるダメージを防ぐことに努めている	住み替え先への関係者の訪問に際しご本人の様子を見ていただき情報を提供しています。また、ご家族やご本人が心配されていることについて問い合わせして、不安なくスムーズに住み替えが出来るように援助しています。	○	今後同様に取り組んでいきます。

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
Ⅳ. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援			
1. その人らしい暮らしの支援			
(1)一人ひとりの尊重			
50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	○	今後同様に取り組んでいきます。
51	○利用者の希望の表出や自己決定の支援 本人が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援をしている	○	今後同様に取り組んでいきます。
52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	○	今後同様に取り組んでいきます。
(2)その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援			
53	○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている	○	今後同様に取り組んでいきます。
54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	○	今後同様に取り組んでいきます。
55	○本人の嗜好の支援 本人が望むお酒、飲み物、おやつ、たばこ等、好みのものを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している	○	今後同様に取り組んでいきます。

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
56	○気持よい排泄の支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している	ケース会議を行う際には、個々の排泄状況や「意見交換シート」を活用し、一人ひとりに合わせた排泄援助が出来るように話し合いを行っています。	○	今後同様に取り組んでいきます。
57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	入浴時間は決めています。身体状況や精神状態により、入浴の声掛けと実施を行い、気持ちよく入浴できるように支援しています。入浴をあまり好まない方には、時間をおいてもう一度声かけを行うなど工夫をしています。	○	今後同様に取り組んでいきます。
58	○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している	入居者様の身体状況に合わせ、日中の休息時間を設けています。日中の活動を通して生活リズムを整えることを心掛け、夜間のベッドへの誘導は、入居者様の生活のペースに合わせています。	○	今後同様に取り組んでいきます。
(3)その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援				
59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	外出の機会を多く設けられるように努力しています。日々の生活の中では、生活歴や趣向に合わせた家事援助やレクリエーションを個別に提供出来るようにしています。	○	今後同様に取り組んでいきます。
60	○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	当ホームでは、金銭の管理は行わないことになっています。そのためお金を所持している方は少ないですが、所持されている方については好みのお菓子を買うなどの際には援助を行っています。	○	今後同様に取り組んでいきます。
61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	明確な外出の希望をされる方はわずかですが、希望された場合には外出の援助を行っています。希望を伝えるにくい方については、しぐさやそぶりから判断し、外出の支援を行っています。天候の悪い日には他のユニットに出かけるなど、気分転換が図れるように支援しています。	○	今後同様に取り組んでいきます。
62	○普段行けない場所への外出支援 一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している	月1回外出行事を企画し、入居者様の希望を聞いて場所を決定しています。また、3ヶ月に1度は外食会の企画も行っています。	○	今後同様に取り組んでいきます。

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
63	○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	手紙を書いて、郵送を職員に依頼する方がいますので、援助を行っています。電話での伝言は依頼されますので、相手方に伝え、相手方からの言葉を伝えるなど、仲介役をするなどの支援を行っています。	○	今後同様に取り組んでいきます。
64	○家族や馴染みの人の訪問支援 家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している	面会の方が見えたときには椅子とお茶を用意し、ゆっくりくつろげる雰囲気作りを心がけます。また、職員の目の届かない場所に談話コーナーがあり、気兼ねなく過ごせるスペースを確保してあります。	○	今後同様に取り組んでいきます。
(4) 安心と安全を支える支援				
65	○身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束は一切行ってはいません。職員に対し、研修を受ける機会を設け、理解が深められるような配慮を行っています。サークルや施設も場合によっては身体拘束になり得ることも理解しています。	○	今後同様に取り組んでいきます。
66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	居室に関しては鍵をかけることはありません。玄関に関しては安全性を考えて鍵をかけていますが、そのことによる利用者への心理的な不安や閉塞性などは職員もよく理解しており、できるだけ一緒に外に出る機会などを設けるようにしています。	○	今後同様に取り組んでいきます。
67	○利用者の安全確認 職員は本人のプライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している	居室を訪問する際には、必ずチャイムを押しプライバシーに配慮した上で安否確認を行っています。居室不在時でも、訪室しなければならない時には、ご本人の了解を頂いたうえで入室しています。	○	今後同様に取り組んでいきます。
68	○注意の必要な物品の保管・管理 注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている	はさみや爪きりを持参されている方がおりますが、職員が定期的に確認を行う方やステーションで預かり使用するときのみ渡すなど、その方に合わせた対応を行っています。	○	今後同様に取り組んでいきます。
69	○事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐための知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる	各々の事項については研修を受けられるようにしています。ヒヤリハットの事例に関しては会議の中で情報共有を図るようにしています。また、他事業所で起きた事故等を会議や申し送りの中で伝え、予防を図っています。	○	今後同様に取り組んでいきます。

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
70	○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている	救急救命の研修を受けるようにしています。緊急の際の対応については、マニュアルを作成し、職員に説明を行うようにしています。	○	今後同様に取り組んでいきます。
71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	年2回消防署指導の下、避難訓練を実施しています。近隣の商店や住民の方には、日常会話の中で、そのような場合の対応について折に触れて話すようにしています。	○	今後同様に取り組んでいきます。
72	○リスク対応に関する家族等との話し合い 一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にした対応策を話し合っている	状態や状況に合わせて考えられるリスクについては随時説明し、ご理解を頂けるよう話し合っています。	○	今後同様に取り組んでいきます。
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援				
73	○体調変化の早期発見と対応 一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気付いた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている	毎日定時のバイタル測定を行うことと、日々の観察により少しの変化に気付き、体調の変化を見逃さないようにしています。体調の変化がみられた場合にはバイタルチェックを行い報告と記録を行い、必要に応じ訪問看護の助言をいただいて対応します。その情報を申し送りで共有し、適切に対応が出来るようにしています。	○	今後同様に取り組んでいきます。
74	○服薬支援 職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	主な内服についてはよく理解しています。個人ファイルの中に薬情を入れ、全職員が薬の内容を把握できるようにしています。内服に誤りがないよう袋に色分けした日付を記入するなど、正確に内服できるよう努めています。	○	今後同様に取り組んでいきます。
75	○便秘の予防と対応 職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけ等に取り組んでいる	一人ひとりの排便サイクルの観察を行い、水分補給や食事摂取状況が排便に及ぼす影響について考え取り組んでいます。	○	今後同様に取り組んでいきます。
76	○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている	毎食後口腔衛生の援助を行っています。自分で行える方でも、磨き残しの多い方については確認を行い、口腔内の清潔が保てるよう援助しています。	○	今後同様に取り組んでいきます。

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	一人ひとり食事内容が違っており、常食・粥・キザミ等食事を摂取しやすい形態で提供しています。水分についてもゼリーにして提供するなど個々の対応を行っています。食事量、水分量については摂取量を記録し、必要な量が摂取出来ているか確認を行っています。	○	今後同様に取り組んでいきます。
78	○感染症予防 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している(インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等)	感染症についての研修を受けています。感染症対応マニュアルと感染予防マニュアルをいつでも閲覧できる場所に設置しています。季節に応じた感染症に対す。インフルエンザについては予防接種を受けています。	○	今後同様に取り組んでいきます。
79	○食材の管理 食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている	食材の保存方法は決められたシステムによって徹底管理されています。食材の賞味期限も定期的に確認し、必要に応じ廃棄し、食材を扱う際の調理器具の消毒を行うなど、安全な食材の使用と衛生管理に努めています。	○	今後同様に取り組んでいきます。
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり				
(1)居心地のよい環境づくり				
80	○安心して出入りできる玄関まわりの工夫 利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている	建物の周囲は植樹し、ハードな建物のイメージを緩和できるよう努めています。	○	今後同様に取り組んでいきます。
81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共有スペースは窓が多く明るい空間となっており、椅子やテーブルが置かれています。季節の花を飾りつけたり、植木を置くなど家庭的な雰囲気、共有空間が居心地の良いものとなるように努めています。	○	今後同様に取り組んでいきます。
82	○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中には、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	スタッフからは目の届かない位置に談話コーナーが設けられ、少数ではありますが、開放的な場所としてうまく活用されています。	○	今後同様に取り組んでいきます。

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	使い慣れた家具や電化製品や写真を置く、植木を置くなど、自由にしていただいています。入居者様の思いで居室を整えることが、精神的な安定につながり、居心地の良いものとなっています。	○	今後同様に取り組んでいきます。
84	○換気・空調の配慮 気になるにおいや空気のだよみがなく換気に努め、温度調節は、外気温と大きな差がないよう配慮し、利用者の状況に応じてこまめに行っている	時間やタイミングを決めて換気を行っています。室温は夏は27度、冬は24度でエアコンを設定し、外気との差を最小限にするよう心がけています。	○	今後同様に取り組んでいきます。
(2) 本人の力の発揮と安全を支える環境づくり				
85	○身体機能を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの身体機能を活かし、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	廊下・トイレ・脱衣室・浴室には手すりを備え付け、床面はフラットになっています。一人ひとりの機能を活かし、安全に動作を行うことが出来るよう配慮された建物となっています。	○	今後同様に取り組んでいきます。
86	○わかる力を活かした環境づくり 一人ひとりのわかる力を活かし、混乱や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫している	夜間でもトイレにひとりで行くことが出来るようトイレ前の電気を一晩中つけています。また、入居者様の好みの物はむやみに移動しないようにしています。更衣の際には切る順番に衣類を並べるなど、ひとりで出来るように援助しています。	○	今後同様に取り組んでいきます。
87	○建物の外周りや空間の活用 建物の外周りやベランダを利用者が楽しんだり、活動できるように活かしている	建物の外には農園があり、入居者様と一緒に家庭菜園をしています。テラスは広く洗濯物を干すスペースとテーブルを設置しお茶会が出来るスペースを確保し、活用しています。	○	今後同様に取り組んでいきます。

V. サービスの成果に関する項目			
項 目		最も近い選択肢の左欄に○をつけてください。	
88	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	○	①ほぼ全ての利用者の
			②利用者の2/3くらいの
			③利用者の1/3くらいの
			④ほとんど掴んでいない
89	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	○	①毎日ある
			②数日に1回程度ある
			③たまにある
			④ほとんどない
90	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
91	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
92	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
93	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
94	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
95	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています	○	①ほぼ全ての家族と
			②家族の2/3くらいと
			③家族の1/3くらいと
			④ほとんどできていない

項 目		最も近い選択肢の左欄に○をつけてください。	
96	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている		①ほぼ毎日のように
			②数日に1回程度
		○	③たまに
			④ほとんどない
97	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている	○	①大いに増えている
			②少しずつ増えている
			③あまり増えていない
			④全くいない
98	職員は、活き活きと働けている	○	①ほぼ全ての職員が
			②職員の2/3くらいが
			③職員の1/3くらいが
			④ほとんどいない
99	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
100	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	①ほぼ全ての家族等が
			②家族等の2/3くらいが
			③家族等の1/3くらいが
			④ほとんどできていない

【特に力を入れている点・アピールしたい点】

(この欄は、日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入してください。)

グループホームあかぎは、四季折々の季節の移ろいが楽しめる自然豊かな場所にあります。当ホームでは、ご家族様の支援を受けながら、入居者様と職員と明るく笑いの絶えない家庭的な雰囲気の中で生活を送っています。日々の生活は、入居者様のそれまでの生活を大切に、心身の状態や意向や趣味等を踏まえたうえで、その人らしく生活を送ることが出来るよう、きめ細かな援助を行っています。食事の準備や後片付け、洗濯たたみなど家事的なことは、入居者様の自主性を尊重しながら職員と協力して行い、それぞれの役割を持って毎日を過ごすことの出来るよう支援しています。春にはお花見、空には紅葉狩りと自然の多い環境を生かした外出行事、和食や洋食等様々な雰囲気を楽しみながらの外食会、ドライブ、お買い物、季節の行事等変化に富んだ日々折々の行事を行い、入居者様が毎日楽しく過ごされるように考えております。